

# 市民記者が行く！ 広報サポーターレポート



## チカラの限り漕ぎまくれ！ 第18回はストーンカップ



広報サポーター  
長瀬拓也さん(高島町)

8月3日、東幡豆港で第18回はストーンカップが開催されました。チームごとに工夫を凝らしたいかだを漕ぎ、一番速い

チームに幡豆石でできたストーンカップが贈られる、そんな全宇宙が注目する一大レースを取材してきました。

会場には、さまざまないかだが並んでいました。参加者も事前にストレッチを入念にするなど、準備を怠りません。そんな中、西尾市が生んだスター、市民映画「オシニ」にも出



▶ストーンカップ(中段を指し出番を待ついかだ上段)。ミスターストーンカップ南翔太さん(下段右)。名古屋市からお越しの三田村さんご一家(下段左)



演予定の「ミスターストーンカップ」南翔太さんが特別来場！出場者へのあいさつを終えた翔太さんは「西尾市の皆さんはエネルギーギッシュでパワーが違う。年々盛り上がっていて、去年よりも活気がある！」と感じたそうです。

レースが始まり、65チームによる熱い戦いが繰り広げられました。ひたすら漕ぐチーム、全



員で息を合わせるチーム、さまざまな戦い方を見ることができました。また、レースの合間には、いかだを持っていない方でもいかだレースを体験

できる「体験DIYレース」がありました。出場者の中には、昨年ウルトラヒーローショーで取材させていただいた名古屋市からお越しの三田村さんご一家の姿が。3年前から出場していて、今年は初めて子どもとレースに挑戦。無事にゴールができて、とても面白かったとのことでした。今年のレースは、白山会クレイジーボーイズ



▲全力を尽くして達成感に歓喜する参加者(上段)。憧れのエキスパート部門のストーンカップを手にした白山会クレイジーボーイズ(下段)

がエキスパート部門で優勝しました。カブトムシ好きのメンバーが集まってできたというこのチーム。幡豆の自然が大好きなリーダーの永山貴也さんは「うれしい半分、くやしい半分。スプリント部門で優勝できなかったので、来年は制覇したい！」と、早くも来年の目標を語ってくれました。参加者の皆さんそれぞれが目の前のレースにとっても真剣で、漕いでいる最中の気合は、どのチームも優勝級でした。

来年はどのチームがストーンカップを手にするのでしょうか。戦いはもう始まっています！

広報サポーターは公募により選ばれた市民記者です。これからも市民の目線で市内各地のイベントなどを取材していただきます。